

女子ハンドボールチーム「横浜メルズ」

リーグH参入・地域共創構想

神奈川から新しい波を世界へ

2026 年 8 月 3 日

横浜メルズ (YOKOHAMA MERS)

運営：株式会社はやぶさパートナーズ

※本資料は、2026 年 7 月 21 日付プレスリリース、2026 年 8 月 3 日付記者会見配布資料、自治体連携資料、スポンサーシップ資料、地域共創アクションプランは本日時点の検討状況に基づくものであり、チーム名を含め今後変更となる可能性があります。

目次

はじめに（発表の背景と記者会見概要）

1. リーグH参入に向けた基本方針
2. 横浜メルズの中長期ビジョン
3. チームの運営体制
4. スポンサー企業・連携自治体の募集方針
5. 今後検討中の事項
6. お問い合わせ

はじめに

女子ハンドボールチーム「横浜メルズ（YOKOHAMA MERS）」（運営：株式会社はやぶさパートナーズ、代表取締役：恵比須 潤）は、日本ハンドボールリーグ機構が運営する国内トップリーグ「リーグH」への参入に向けた活動を本格始動しました。横浜メルズが目指すのは、試合を行うだけのスポーツチームではなく、女性アスリートの雇用とキャリア形成、子どもたちの運動機会の創出、学校部活動の地域連携、住民の健康づくりなど、女子ハンドボールを地域課題の解決につなげるチームです。

◆ 背景：関東における女子プロハンドボールチーム不在という課題

ハンドボールは世界 209 の国と地域が加盟する国際競技であり、日本国内の競技人口は約 10 万人にのぼりますが、女子選手の多くは高校卒業を境に競技を離れる傾向にあります。特に関東エリアは女子ハンドボール登録者数が全国最多である一方、本拠地を置く女子トップリーグ所属チームが 2004 年以来存在せず、競技を続けたくても続けられる環境がないという構造的な課題を抱えていました。ハンドボールの歴史が古く多くの有力選手を輩出してきた神奈川県に女子プロチームを設立することで、選手・審判・指導者・運営スタッフ等の雇用創出、女子選手のセカンドキャリア形成、そして次世代の子どもたちの目標となる存在を目指します。

◆ 代表コメント

「私たちは神奈川から、新しい波を世界へ届けたいという想いで YOKOHAMA MERS を立ち上げました。関東には女子プロハンドボールチームがまだ存在せず、競技を続けたくても続けられない選手がたくさんいます。この度、リーグH参入に向けた活動を本格始動し、女子プロハンドボールの新たな可能性を、そして女性アスリートが活躍できる新たな舞台を、この神奈川から切り拓いてまいります。」

女子ハンドボールチーム「YOKOHAMA MERS」代表 恵比須 潤

会見での主な発表内容：①リーグH参入に向けた基本方針 ②中長期ビジョン ③運営体制 ④スポンサー企業・連携自治体の募集方針 ⑤今後検討中の事項（チーム名を含む）

1 リーグH参入に向けた基本方針

◆ 「リーグH」とは

リーグHは、2024-25 シーズンより新たに生まれ変わった日本ハンドボールリーグの新体制です。

「H」には地域密着（HOME）、希望（HOPE）、英知の 3 つの意味が込められており、「共創」と「競争」をキャッチフレーズに、アジア No.1、世界トップレベルのリーグを目指す構想として、一般社団法人日本ハンドボールリーグにより運営されています。

◆ 横浜メルズの参入方針

横浜メルズは、2026 年のリーグH新規加盟審査に向け、以下の方針で準備を進めています。

- ・ 神奈川県・横浜市をはじめとする県内自治体からの行政支援書（知事名・市町村長名）の取得
- ・ 神奈川県ハンドボール協会からの支援書の取得
- ・ 収容 1,000 人以上（将来的に 1,500 人以上）のホームアリーナの確保
- ・ 選手 16～22 名体制の整備、統一契約書によるプロ契約の段階的締結
- ・ 決算書・資金繰り表等の提出を含む財務基盤の整備

◆ リーグH新規加盟の主な要件（概要）

要件区分	概要
チーム名要件	ホームタウンとなる地域名をチーム名に含めること
アリーナ要件	収容 1,000 人以上（将来的に 1,500 人以上）のホームアリーナ確保、冷暖房・シャワー設備等の整備
集客要件	シーズンを通じて 1,500 名の集客達成
ユースチーム要件	U12 ユースチームの保有・連携、U15 ユースチームの将来的な保有・連携
選手等要件	選手 16～22 名の登録、統一契約書によるプロ契約の段階的締結
財務要件	決算書・税務申告書・資金繰り表等の提出、経常利益黒字化
支援書要件	都道府県知事名・市町村長名による行政支援書、都道府県ハンドボール協会支援書の取得

2 横浜メルズの中長期ビジョン

◆ 3 か年計画

年次	主な取り組み
1 年目（2028 年度）	リーグH 参入。県内主要市町村でのイベント展開開始、育成プログラムの体系化
2 年目	連携市町村数の拡大、ジュニアクラブの本格運営開始
3 年目	県内自治体との連携体制確立、SDGs 活動の外部評価取得・情報発信の強化

◆ 横浜メルズが目指す地域共創モデル

横浜メルズは、試合を行うだけのスポーツチームではなく、チーム・企業・自治体・医療機関・教育機関がそれぞれの強みを持ち寄り、ハンドボールを通じて次の 5 つの地域課題の解決に取り組めます。

- ・ 女性アスリートの雇用・キャリア支援：競技と仕事を両立できる雇用環境の整備、引退後のキャリア形成支援
- ・ 子どもの運動機会とスポーツ教育：ハンドボール教室、学校訪問、体力づくり教室、放課後スポーツ活動
- ・ 部活動の地域展開への協力：選手・指導者の派遣、合同練習会、指導者研修
- ・ 健康づくり・医療との連携：運動教室、健康測定、けが予防、女性特有の健康課題に関する啓発
- ・ 地域の魅力発信と交流人口の創出：ホームゲーム・イベントを通じた観光、飲食、商業等との連携

◆ 地域共創アクションプラン：7 つの重点プロジェクト（ACTION MAP）

単発イベントで終わらせず、地域課題の把握から実施、効果検証、翌年度改善までを一つのサイクルとして運営します。

重点領域	主な取り組み	目指す変化
01 子ども・学校	運動教室／学校訪問／キャリア教育	子どもの運動機会と夢を育てる
02 部活動・育成	指導者派遣／合同練習／U12・U15 連携	地域で競技を続けられる環境をつくる
03 女性の健康	運動習慣／けが予防／女性特有の健康啓発	女性が健やかに活躍できる地域へ
04 シニア・共生	介護予防／誰でも参加できるスポーツ	世代・障害を越えた交流を生む

重点領域	主な取り組み	目指す変化
	体験	
05 地域活性化	市民招待／観光・商業連携／地域 PR	ホームゲームを地域の祭りにする
06 選手キャリア	競技と仕事の両立／引退後支援	女性アスリートの持続可能な働き方
07 防災・社会貢献	啓発／募金／地域ボランティア	地域の一員として有事にも支え合う

3 チームの運営体制

◆ チーム概要

項目	内容
チーム名	YOKOHAMA MERS（横浜メルズ） 2026 年 8 月 3 日現在
運営会社	株式会社はやぶさパートナーズ
設立	2026 年 3 月
活動拠点	神奈川県
所属選手数	9 名（女子）
主な戦績	2026 年関東社会人ハンドボール選手権大会 優勝
主なスポンサー	医療法人社団やまびこ、医療法人社団高志会、株式会社キニョン 等
スローガン	神奈川から新しい波を世界へ

◆ 会社概要

項目	内容
会社名	株式会社はやぶさパートナーズ
代表者	代表取締役 恵比須 潤
所在地	神奈川県横浜市港北区大豆戸町 1210-1-101
事業内容	女子ハンドボールチーム「YOKOHAMA MERS」の運営 等

◆ チーム名の由来

「MERS」は、フランス語で「海」を意味する“la mer”を由来とし、Marcher（歩む）・Ensemble（共に）・Region（地域）・Sourire（笑顔）の頭文字を組み合わせたチーム名です。神奈川の皆さまと共に歩み、ハンドボールを通じて笑顔を届けたいという想いを込めています。

4 スポンサー企業・連携自治体の募集方針

横浜メルズでは、ユニフォームや会場への広告掲出だけでなく、企業の経営課題や社会貢献方針、自治体ごとの地域課題に合わせた連携を提案します。単なる協賛・後援にとどまらない「共創パートナーシップ」として、以下の内容で募集します。

◆ 4-1. スポンサー企業に提供する価値

提供価値	具体的な内容	企業側のメリット
①広告・露出機会	ユニフォーム（胸・背中・パンツ）、ホームゲーム会場の看板・横断幕、公式サイト・SNSへの企業名・ロゴ掲出	露出機会の獲得、ブランド認知度の向上
②企業 PR・広告・イベント	選手が出演する広告・PR 動画の制作、展示会・企業イベントへの選手派遣、商品・サービスの選手による紹介	選手の知名度・好感度を活用したプロモーション効果
③社員・家族向け観戦・運動機会	ホームゲームへの社員・家族招待枠の提供、企業内でのハンドボール体験会・運動教室の実施	福利厚生の充実、社員のエンゲージメント向上
④女性活躍推進・健康経営との連動	女性アスリートによる講演会・キャリアセミナーの実施、健康経営の取り組みと連動したイベントの共同企画	女性活躍推進・健康経営に関する社内外への発信材料
⑤選手の雇用・キャリア形成支援	デュアルキャリア選手の雇用受け入れ、インターンシップ・職場体験の受け入れ	採用力・企業イメージの向上、多様な人材の確保
⑥こども向けスポーツ教室への協賛	企業名を冠したハンドボール教室・体験会の開催、教材・用具提供を通じた協賛	地域における企業の認知度・信頼の向上
⑦地域イベント・自治体事業への共同参加	自治体主催イベントへの共同出展、地域貢献活動への参画	地域社会への貢献活動としての発信、自治体との関係構築
⑧スポンサー企業同士の交流・事業連携	スポンサー企業が集う交流会・商談会の開催	異業種との新たなビジネスマッチングの機会
⑨商品・サービスの共同開発	チーム・選手監修によるコラボ商品・サービスの企画開発	新たな商品展開、話題性の創出
⑩SDGs・人的資本・社会貢献の発信素材	協賛活動の実績データ・写真等を、統合報告書やサステナビリティレポートに活用可能な形で提供	SDGs・人的資本経営に関する開示情報の充実

横浜メルズと組む意義

- ・ 女子スポーツならではの価値：女性活躍推進やジェンダー平等といった社会的テーマに具体的な形で取り組む姿勢を示せる。関東エリアに本拠地を置く女子プロチームはこれまで存在せず、先駆的な取り組みとして注目される可能性がある
- ・ 地域密着による波及効果：神奈川県内の自治体・学校・医療機関と連携した地域密着型の活動を通じ、地域社会との接点を継続的に持てる
- ・ 段階的に拡大する露出機会：リーグH参入後は露出機会がさらに拡大する見込みで、早期協賛はチームの成長とともに露出価値が高まる先行者利益にもつながる

協賛にあたっての想定ステップ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5
お問い合わせ・ヒアリング（企業の課題・目的の共有）	連携メニューのご提案（10項目から企業ごとにカスタマイズ）	協賛内容・条件のすり合わせ	協賛契約の締結	活動開始・定期的な報告

◆ 4-2. 連携自治体と実施したい取組

横浜メルズは、活動拠点に限定せず、チームの理念に賛同する自治体との広域的な連携を目指します。神奈川県内 33 市町村すべてとの連携を視野に、段階的に活動範囲を拡大する計画です。

取組メニュー	具体的な内容	自治体側のメリット
①小中学生向けハンドボール・運動教室	選手が指導する体験型教室を、市町立小中学校や地域施設で実施。経験の有無を問わず、投げる・走る・跳ぶ楽しさを体験	児童・生徒の運動機会の創出、体力向上への貢献
②学校訪問、キャリア教育、夢をテーマにした講演	現役選手による学校訪問授業、女性アスリートとしてのキャリアをテーマにした講演を実施	キャリア教育の充実、次世代育成への貢献
③部活動地域展開への指導者派遣	中学・高校のハンドボール部活動へ選手・指導者を派遣。合同練習会や指導者研修も実施	教員の働き方改革・部活動の地域移行への協力
④女性の健康・運動習慣づくり	女性特有の健康課題（月経周期と運動、骨密度等）に関する啓発イベント、運動習慣づくりの教室を実施	女性の健康増進施策への貢献
⑤高齢者向け体力維持・介護予防教室	選手が指導する高齢者向けの体力維持・介護予防プログラムを実施	介護予防・健康寿命延伸施策への貢献

取組メニュー	具体的な内容	自治体側のメリット
⑥障害の有無を問わないスポーツ体験	誰もが参加できるハンドボール体験会を実施。パラスポーツとの連携も検討	共生社会・インクルーシブなまちづくりへの貢献
⑦地域イベント・スポーツフェスティバルへの選手派遣	自治体主催のイベント・フェスティバルに選手が参加し、地域住民との交流機会を創出	イベントの集客力・話題性の向上
⑧自治体の観光・特産品・ふるさと納税等の PR	ホームゲーム会場での物産販売・観光 PR ブースの設置、選手を通じた特産品・ふるさと納税の発信	観光振興・ふるさと納税収入への貢献
⑨ホームゲームへの市民招待	自治体を通じて市民をホームゲームに招待し、観戦機会を提供	住民のスポーツ観戦機会の創出、シビックプライドの醸成
⑩災害支援・啓発活動	防災訓練への協力、災害時の啓発活動への参画	防災・減災施策への貢献
⑪地域施設を活用した合宿・交流事業	自治体内のスポーツ施設を活用した合宿・強化練習を実施し、施設の稼働率向上に貢献	スポーツ施設の利用促進、地域スポーツの活性化

横浜メルズと連携する意義

- ・ 女性活躍・ジェンダー平等施策との親和性：自治体が掲げる男女共同参画・女性活躍推進の取り組みを、スポーツという分かりやすい形で具現化できる
- ・ 子ども・教育施策との連動：学校訪問授業や部活動支援は、部活動の地域移行が進む中で地域のスポーツ資源として活用できる
- ・ 健康・福祉施策との連動：高齢者向け介護予防教室や女性の健康啓発は、健康寿命延伸・医療費適正化の取り組みと連携可能
- ・ 「オール神奈川」型の広域連携：特定の一自治体に限らない広域的な連携により、県全体の一体感醸成にも寄与

連携形態の選択肢

連携形態	内容
包括連携協定	複数分野にわたる連携内容を包括的に定める協定
個別事業協定	特定の事業（教室開催等）に限定した協定
イベント共催	自治体主催イベントとの共催・共同実施
後援	自治体からの後援名義の取得

連携形態	内容
施設利用	自治体施設の利用に関する協力
広報協力	広報誌・ウェブサイト等を通じた情報発信の協力

連携にあたっての想定ステップ

STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	STEP5
お問い合わせ・ヒアリング（自治体の課題・目的の共有）	連携メニューのご提案（11 項目から自治体ごとにカスタマイズ）	連携内容・条件のすり合わせ	協定締結・事業開始	定期的な活動報告

5 今後検討中の事項

本資料で説明した内容には、現時点で検討中・調整中の事項が含まれます。確定次第、あらためてご案内いたします。

- ・ チーム名：「YOKOHAMA MERS（横浜メルズ）」は現時点の呼称であり、リーグH加盟審査や関係団体との協議を踏まえ、変更となる可能性があります
- ・ ホームアリーナ：リーグHが定める収容人数要件（将来的に 1,500 人以上）を踏まえ、施設を検討しています
- ・ リーグHへの加盟時期・シーズン：加盟審査の進捗により変更となる場合があります
- ・ スポンサー企業・連携自治体：募集方針に基づき、今後確定次第、順次公表いたします
- ・ 選手構成・運営体制：加盟審査要件を踏まえ、今後拡充を予定しています
- ・ チームロゴ・ユニフォームデザイン等：現行案をベースに、関係各所との協議を踏まえて最終調整中です

6 お問い合わせ

スポンサー協賛および自治体連携、取材・お申込みに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

窓口	内容
株式会社はやぶさパートナーズ 広報担当 中山	記者会見配布資料に記載 / 電話：070-6669-7568 / メール：nakayama@hayabusap.com
横浜メルズ 広報担当 行本	プレスリリース・自治体連携資料・スポンサーシップ資料・アクションプランに記載 / メール：y.mers.handball@gmail.com
共通所在地	神奈川県横浜市港北区大豆戸町 1210-1-101